

FUSSA EXPRESS

2009年 12月号



2009年度スローガン:

創ろう!「ありがとう」のあふれるまち。

Email: info@fussajc.com URL: <http://fussajc.com>

理事長の言葉

「攻守のバランスを考える」

この一年、福生青年会議所の理事長として、LOMのため、地域のために活動して参りました。至らぬ私を担ぎ上げ、支えてくれたメンバーに、心から「ありがとう」の言葉を贈ります。また、様々な場面で暖かい言葉をかけて下さり、励まして下さったシニア会員の皆様、そして共に手を携えて私たちと行動を同じくして下さった関係諸団体の皆様にも厚く御礼申し上げます。

さて、理事長として広報誌に寄稿するのもこれが最後となりました。最後にひとつだけ、私の主張を書か

せていただきます。

明るい豊かなまちづくりの実現のために、私たちは率先して地域に出て行き、働きかけていかなければなりません。それは、どんなに議論を重ねても、実際の行動無くしてまちが変わることはありません。しかし、青年会議所はこの「攻めの姿勢」に大きな価値を置き過ぎて、「守り」をおろそかにしているように私は感じています。「JCIって何やっているの?」「あんまり聞かない団体だな」と言われることを恐れるあまり、守りを固める前に、とにかく外に打って出て、勇気のあるところを示したい、目立ってその存在感を示したい、そう気負っているように見えるときもありません。

青年会議所の「攻めの姿勢」は誇るべきものであり、実際に多くの団体から評価をいただいています。ただ、敢えて苦言を呈するならば、「守り」を固めることなく「すなわち、事業テーマに関する知識や問題意識、また今後の展開といった」地道

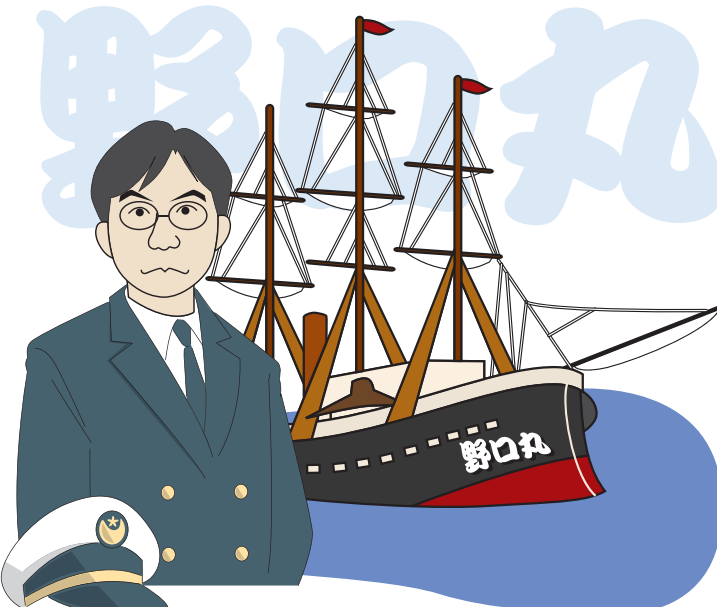
に積み重ねておくべき考え」を十分に掘り下げないままに事業を展開しても、インパクトこそ与えてもそれを根付かせることはできないでしょう。極端なたとえですが、地域の経済問題をテーマにした事業を展開しようとしたとき、「地域の経済状況を調べ、地元の声聞き、人々を啓蒙しつつ、最終的に行政に働きかけることで地域経済を活性化する」というビジョンを描くことなく(「守り」を固めることなく)、著名な経済評論家を呼んで、その動員に全身全霊を傾けて終わってしまうようなものです。これでは、地域の人々から「JCIはイベント屋だ」と揶揄されてしまうでしょう。

「守ること」ははっきり言って地味です。目立たないし、時間も掛かる。しかもメンバーの高いスキルを必要とするため、どうしても敬遠されがちです。しかし、先程の例を見ても明らかのように「守り」なくして勝利は無いのです。仮に二時的な勝利を手に入れることはできても、それはすぐに風化し陳腐化してしまいます。単年度制はしばしば誤解されますが、「二時の勝利を手に入れる」制度では決してありません。私たちの目指すものは「永続的な勝利」なのです。だからこそ、「守り」をおろそかにしてはならないのです。

重ねて、皆さんにお伝えたいのは、守りに必要なスキルは「青年会議所運動を続けることで確実に養われる」ということです。たとえば理事会議。たどたどしく、感想を述べていたメンバーが、数年後、事業目的の脆弱性や予算の甘さを指摘するようになります。たとえば委員会。それ

ぞれが忙しい中、スケジュールを調整し合せて集まり、議論し、事業を計画する。連帯感が生まれ、友情が生まれ、「人のために何かをする」との意義を少しずつ感じていく。たとえば例会設営。緊張感に包まれながら、慎重に進めるも予期せぬハプニングに右往左往することも少なくありません。そんな時に知恵を絞り、助け合って乗り切ること、普段の生活では味わうことのできない充実感、達成感を味わうことができる。こういった経験をすること、いつの間にかしっかりと守りを固められるだけのスキルを身につけることができるのです。

今、全国の青年会議所において3年未満のメンバーが占める割合は年々増えているそうです。つまり、今まで以上に新入会員のスキルアップに掛ける時間が少なくなってきたのです。だからこそ、体面を保つための無謀な攻めをせず、しっかりと守りを固めることの意義を今一度考えてもらいたいです。たとえ自分は勝利の美酒に酔えないと分かっている、次のパトロンを受け取ったメンバーがそれを味わってくれることを期待して活動することができ、それが単年度制の良さであり、青年会議所の「粋」なところだと私は思っています。焦る必要はありません。ウサギに馬鹿にされながらも最後に勝利したカメの例もあります。福生青年会議所の現状をしっかりと把握し、攻守のバランスを取りながら、ひとつずつ実績と信頼を積み重ねていきましょう。





2009



総務委員長としての一年を終えて

ブランドが成功する条件として、「バカ者」(自己の利益を度外視して物事を進める人)、「ワカ者」(世代間での継承を担う人)、「ヨソ者」(外部や顧客の視点から冷静客観的に判断できる人)が必要だという話がある。

08年の10月、第1回目の総務広報委員会予定者会議を行った際、委員長予定者である私は言った、「日本一のWEBサイトと広報誌を作り、日本のアワードを獲得する!そして福生青年会議所の名を世に知らしめ、宇宙に衝撃を与えるのだ!全国大会で野口を胸上げするぞ!」全員ドン引きであった。しかも社員に後ろ指をさされつつWEB制作費は無料、典型的な「バカ者」である。

この「バカ者」にだまされ、引つ張り回された、09総務の諸君は本当に大変だったと思う。それを「楽しい!」などという諸君はやはり「バカ者」だ。以下、その「バカ者」を紹介しよう。

大串昭彦・締切厳守の原稿取り立てに大活躍。いわゆる汚れ役もきっちりこなしてくれた。

宇治山義章・感覚重視で細かいことの苦手な委員長の穴埋めを完璧にこなしてくれた。理系のナイフスライ。

エロスリバース・広報誌レイアウトを1人で、勝手に自分のコーナーを作り、好評を博した。

宋清洙・長年の経験を生かし、入会3年未満で構成された委員会に知恵と勇気を与えてくれた。

野口祐貴・毎年賀詞しか来ないが、その原稿はきっちり書いた。ま

めに連絡もしてくれた。

南場伸輔・彼は「バカ者」ではなく「ヨソ者」である。10月から加入だが、冷静に客観視した意見は大いに役に立った。

予定者の段階で事業方針に記した通りこの1年間、福生青年会議所の知名度とブランド力の向上を目指し、総務広報委員会としてできることは何かという課題をもつて総務広報委員会の委員長に取り組んだ。総務は例会設営も1回で知らない人から見ればとても地味なのだ。

当たり前のことがスムーズに流れるようにするという、過酷な割に報われない感のある委員会である。迷う度に自分の書いた事業方針を読み直した。今も読んでみた。間違っていない。この1年ぶれずにやれたことを誇りに思う。結果、日本のアワード獲得はならなかったが、LOMでは優秀グループ賞という栄誉ある賞を獲得することができた。

2009年はベテランメンバーが抜けて、新たなベースを創り出す年だったように思う。4委員会とも素晴らしいベースを築いた。でもね、まだまだなんだよ。

みんなが青年経済人としてやっていけるのは、自分の力、すなわち俺様の力なんかじゃなく、まちのみんなのお陰様なのだから、少しはまちに還元しなければバチが当たる。築いたベースに塔を建てるのはこれかなのだ。先に述べた成功の条件で足りないのは「ワカ者」である。青年会議所はまちにとっての「ワカ者」に

ならねばならない。来年は副専務理事として、総務広報委員会の担当となり、奇しくもラストイヤーとなる。残り1年、JAYCEEとして終わりが始まるうとしている。「バカ者」の「ワカ者」であるのもあと1年なのだ。

理由はどうあれJICに入会し、明るい豊かなまちづくりを目指すうえで、JICのため、地域のため、ひいては日本のため、自分にできることは何か。自分にしかできないことは何か。それを考えてきた。広告屋として、デザイナーとしてできることは何か。

入会3年目、ずっと総務だった。それを見てきて、考えた。3年目にして自分の成すべきことがわかってきた。委員長として思う存分、力の解放をすることができた。単年制の青年会議所、この原稿執筆時点で、総会を残すのみで09年総務委員長としての死を迎える。思えば始まりから死を意識して行動してきた。記憶力は良いほうだ。死の間際に想い出が走馬燈のように流れるというのは本場で、みんなの喜んでいた顔、怒った顔、その言葉が思い出される。

貴重な時間とその力を総務広報委員会のため、まちのために使ってくれたみんな、本当にありがとう。少しは「ありがとう」のあふれるまちを創れたかな。今年自分にとつてのJICライフの集大成であった。素晴らしい1年をありがとう。

2009年度
総務広報委員会
委員長 大山 剛

今月の誕生日

1月に誕生日を迎えるメンバー
柳 峰吉 君 1月26日生まれ
太田泰之 君 1月3日生まれ



◆第92回通常総会◆

12月17日(木)華膳にて第92回通常総会が開催されました。本総会の参加人数は議決権者数39名中、出席20名、委任19名、欠席0名という状況で、定款第23条に基づき本総会は成立いたしました。

下記の議案が全員賛成で可決されました。

第1号議案
2010年度福生青年会議所
理事長所信(案)

第2号議案
2010年度福生青年会議所
理事メンバー(案)

第3号議案
2010年度福生青年会議所
運営規定変更(案)

第4号議案
2010年度福生青年会議所
組織図(案)

第5号議案
2010年度福生青年会議所
委員会事業方針事業計画(案)

第6号議案
2010年度福生青年会議所
収支予算書(案)

第7号議案
2010年度福生青年会議所
JIC基金予算書(案)

第8号議案
2010年度福生青年会議所
出向会員(案)

総務広報委員会
委員 南場伸輔

大切な人を、ありがとうぐいざいます

(JCCメンバーのご家族の方々へ)

この一年、皆さんの大切な人(夫or妻or恋人orお父さんorお母さんor息子or娘)をJCCで引つ張りまわした張本人の野口です。そのために、皆さんにいろいろな我慢をさせてしまったり、時にはさみしい思いをさせてしまったこと、この場を借りて心からお詫び申し上げます。

給料をもらえるわけでもないのに、地域のために何をすべきか、夜遅くまで真剣に話し合う。たまの休みにも関わらず、地域のために朝から晩まで動き回る。思わず「どうしてそこまでやる必要があるの?」と尋ねたくなると思います。ゆつくり身体を休めればいいじゃないか、子どもと向きあつてくれればいいじゃないか、たまった仕事を片付けてくれてもいいじゃないか; そう思うお気持ちにはよくわかります。まず、私たちはそのことを我々は真摯に受け止め理解する責任があると思います。

ただ、誰もが隙あらば自分の利益を少しでも得ようとして躍起になっているこの時代において、皆さんの大切な人は最も貴重な「自分の時間」をまちづくりという「公的な運動」に費やしたという事実を、たつた少しだけでも良いので誇りに思っていたいただきたいのです。

ここ最近、景気の低迷もあり、ボランティア精神が消滅しつつあるそうです。「誰かがやるべきだけと、私はできません」と、できない理由をずらりと並べて立ち去る方も多いそうです。ボランティアがなくなり、すべてそれを「仕事」とする人が何でもやってくれる世の中が来るかもしれません。そうなれば金銭的なやりとりのみが重要視され、「人と人とのつながり」は「層希薄になり、「金払っているんだから当然だろう」との思いから「互いに感謝する」気持ちも、人のために何かをすることへの価値観もなくなってしまうでしょう。地域コミュニティは完全に崩壊し、「お金」だけが価値を持つ

ギスギスした国になり、年間3万を越す自殺者ももつと増えてしまふことでしょう。そうなければはや「日本崩壊」です。

JCC活動であれ、町会の活動であれ、PTAの活動であれ、「誰かのために何かをする」という行為が、「人として崇高な行為であり、お金に換えられない価値を持つ」ということを私たち大人がしっかりと指し示して子どもたちに伝えていかなければ、この「負のスパイラル」からの脱却は不可能です。そんな危機感をメンバー一人ひとりが感じつつ活動していることもご理解いただきたいと思ひます。

また、もうひとつ別の面からお伝えしたいことがあります。それは、皆さんの大切な人は「他の人にとつても大切な人だった」ということです。たとえ疲れていても、力を振り絞つてJCCに出かける理由は、「自分が必要とされている」と感じているからです。そしてそれに応えるべきだという「義の心」を持っているからです。皆さん大切な人は、仲間から信用されない、期待もされないような人材では決してなく、メンバーにとつてもかけがえのない人だということをご報告させていただきます。

皆さんの大切な人は、このJCCで「生付き合える友人」を見つけた。竹馬の友と言いますが、30歳を過ぎても、仕事や家族のことを腹藏なく話せる友人はできるのです。むしろ共に同じ目的を掲げ、辛苦を共にした仲だからこそ、また仕事と違い「お金」が絡まないからこそ、その絆は純粹で竹馬の友以上に深いと言えます。年をとつても快活に談笑する友がいるということ、はその人の人生を何倍にも豊かにし、ま

たその人の魅力を何倍にも高めると思ひます。そしてきっとそれは皆さんの人生をも豊かにしてくれるはずですよ(お約束します)。

少々言い訳がましくなつてしまいました。でも、皆さんの大切な人は、いつでも皆さんのことを大切に、そして誇りに思つていました。カミさん自慢を堂々とする人もいれば、娘の可愛さを朝まで力説する人もいます。職場の仲間への感謝の気持ちを口にする人もいれば、親の偉大さに改めて気付いた人もいます。人間ですから、機嫌が悪かったときもあつたかもしれませぬ。飲み過ぎて帰宅が遅くなつてしまったことあつたかもしれませぬ。まだまだ人として未熟なところもあり、皆さんにはこれからご迷惑をお掛けするところでしょう。でも、どうか、「たなごころの中

悲深く見守っていただければ幸いです。今すぐではないかもしれませんがいつか必ず「青年会議所のお陰だね」と言つていただけるよう我々メンバーも更に精進して参ります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

福生青年会議所 第32代理事長
野口哲也



感謝葉 感言

この度はかくも盛大な卒業式を私たち2009年度卒業生のために行ってくださり、多くのメンバー始め、ご家族の皆さん、来訪J.Cの皆さん並びにOBの先輩にお祝いの言葉を頂きまして本当にありがとうございました。

人前で自分を祝って頂いたりするのが極端に苦手であつた慣れない事もあり、皆さんに失礼が無かつたか、今だに不安ではありますが、設営メンバー始めご参加頂いた皆様のお蔭様をもちまして無事卒業させて頂きました。改めて卒業生3人を代表し、御礼申し上げます。

私にとつての青年会議所活動は、同期卒業生の宋清洙君や中村潤君と比べて約5年間という短い期間であり、2人に比べて輝かしい経歴などは無いのですが、卒業生を代表しての一言とご指名なので自分なりの想いを書かせて頂きます。

私が福生青年会議所に入会した当時は会社を起業したばかりと言ふ事もあり、職場と自宅の往復の毎日です生きて行く事で精一杯。旅行業界の中でもニューヨークの911テロ

の傷跡がまだまだ残る厳しい経営状況の時期でした。

入会のお誘いを頂いた当初も、福生、羽村、瑞穂の街で何か大きな事をしてやろうなどと言ふような思いなどもなく、営業目的の一環としてお付き合い程度に入会して、仕事を少しでももらえれば、良しと言ふような不純な動機での入会でした。

当然その後もほぼ1年間は活動にも参加せず、会費さえ払ってれば文句も無いだろう、というように思つていたことを覚えています。

そんな自分を見捨てる事なく根気良く声を掛けていただき、地域で共に活動する事に興味をもつていくよう声を掛けて下さったメンバーを始め、OBの先輩方、時に家族の皆さんには今でも本当に感謝の思い一杯ですが、当時は何故ここまで執拗に、他人の生活範囲の中に入り込むうとするんだらう、と悩んだ事もありました。

そんな後ろ向きな性格の私でしたが、少しずつ、自分の中で青年会議所に対する思いに変化が生まれて来ます。

イベントや事業、例会に参加して、そこで真剣に設営をしているメンバーと出会い、何かを学んで自分の物にして持ち帰ろうという姿勢を見たり、地域のためにメンバー同士で協力しあつて目指し、成功させようとするそのパワーを見るうちに、『折角会員であるのなら、自分もこんな風にか何かを学んだり、周りの人の為にか出来る事を考えるような形で参加してみよう』と、いつの間にか考へるようになったのです。きれいな

に聞こえるかもしれませんが、本当に自分の中でそう思える一瞬があつたように思います。

自分の中で真直ぐに青年会議所と向き合つて活動して行こうと決めた後は、それまでの時間を惜しむように、多くのメンバーと共に楽しんで活動をさせて頂いたように思います。

本年度は監事と言う役職を野口理事長より頂き、今の自分が出る事を精一杯させて頂きました。自分の力不足を承知した上で任命して下さいました。

横田基地の賀詞交歓会から最後の総会まで1月1月を噛み締めるように参加した1年でしたが、最後の年を十分に満喫させて頂きました。

今後はOBメンバーとして、入会間もないメンバーや、将来メンバーになつていく人達に、自分が青年会議所活動を通じて学んだ知識、受けたご恩、培つた想いを、影ながら返して行けたらと思つていますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

2009年度卒業生 武藤寿信

MUTO
TOSHINOBU

武藤さん、宋さん、中村さん

ありがとうございました

THE GRADUATING MEMBERS

卒業生からの メッセージ

NAKAMURA
JUN



SO
KIYOSHI



M E S S A G E F R O M

総務広報委員会 1月例会案内

新年賀詞交歓会

2010年度最初の事業となります第453回例会(1月例会)・新年賀詞交歓会を下記の通り開催いたします。新組織でのスタート、入江誠理事長の所信、各委員会の活動計画の発表、来賓・来訪JCOBの方々の交流の場となります。ご多用中とは存じますが、多数のメンバーに参加をお願いしたく、ご案内申し上げます。

日時 2010年1月28日(木)

受付開始 18時30分
 式典開会 19時00分
 懇親会閉会 21時00分

式典会場

米軍横田基地内 下士官クラブ
 電話 042-551-0178
 (横田基地 広報担当)

懇親会

米軍横田基地内 下士官クラブラウンジ
 電話 042-551-0178
 (横田基地 広報担当)

登録料 無料

基地での開催のため事前の登録がないと入場することができません。別送の登録用紙を必ず期日までにお送り下さい。

※当日の服装はダークスーツ(紺又はグレー)にてお願いいたします。

※当日の集合時間及び役割につきましましては、後日ご連絡致します。

※ご不明な点は総務広報委員会 委員、高山優(090-1452-7575)までお問い合わせ下さい。

総務広報委員会 委員長 名島健一

「安里会頭から卒業生へのメッセージ」取材記

11月28日(土)に理事長をはじめ私たち総務メンバーは卒業式のBIGサプライズの計画を立て、2009年の会頭である安里繁信君にアポイントを取り、千代田区にある(社)日本青年会議所事務局に行ってきました。現地では今回の仕掛け人である野島先輩と待ち合わせをして、サプライズビデオの作成に協力していただきました。

日本青年会議所の事務局では色々なメンバーたちが真剣に会議をしている最中、私は柱の中心にある安里会頭のポスターに目を留めました。そのポスターは近くで見ると青年会議所のメンバーの顔写真で出来ていて、いったい何人の人がポスターの中にいるのか分かりませんが、まさに「今年度の会頭と一致団結をして様々なことを乗り越えていこうではないか」と思える良いポスターでした。

そうこうしている間に会頭の側近から呼ばれ、会頭室の隣の部屋で順番を待っていました。その部屋には現在まで



の会頭の写真がズラリと並んでおり、その中に40歳位の時の麻生太郎氏の写真を発見しました。やはり若い驚きと感動!!皆様も機会があれば行ってみたいはどうでしょう?

さて福生青年会議所の順番になり、緊張しながら会頭室に入り、挨拶の後、開口一番、野口理事長に「いつもホームページ拝見しており、福生JCの理事長さんには勉強させてもらっていますよ」と気さくに声を掛けていただき、その言葉で緊張がほぐれました。

会頭には今回の趣旨を説明し、総務

で作成した卒業生の名前・経歴を2分くらい見た所で会頭が「じゃー始めましょう!」えっ?もう見なくて良いの?...結果は卒業式のサプライズビデオレーターを見て下さった人にはおわかり頂けたと思います。実は卒業生に対するあれだけのビデオレーターが打ち合わせ時間も含め、5分弱で撮影完了したのです。

その後は会頭との雑談の時間を設けていただき、福生JCのメンバーにも大変興味をお持ちで、終始笑いの絶えない場を提供して下さいました。また今回来られなかった我が総務委員長には直筆のサイン入りの本を頂きました。安里会頭のJCマインドの根本は日本全国に「英知と勇氣と情熱」の伝動にあるのではなからうか。会頭のお気遣いに私たちは安里繁信という人間が、今後もこの国にとって、大切な人物であるということを確認しました。

総務広報委員会 副委員長 大串 昭彦



いよいよ英語でええのも最後の掲載となりました。最終回は、一番反響の多かった「そんなの英語じゃないよ!」第2弾を特集しました。

インフラ (Infrastructure) インフラは「インフラストラクチャー」を短縮した独特和製英語。infraは「下」といった意味しかなく、単独の単語としては通じません。

ウィンカー (turn signal) win ker はただ単に「ウィンクをする人」という意味で、方向指示器としての意味はまったくありません。

エキス (extract) はエクストラクト(抽出物)を短縮して誕生した和製英語。アメリカ人からすると「エキス」と言われても、アルファベットの「X」又は、くしゃみしているのと勘違いをされます。

マスコミ (mass communication) はマスコミュニケーションを短縮して作った和製英語です。本来の英語の意味では大衆伝達という意味で、日本のように「報道機関」といった意味は持ち合わせていません。アメリカ人に「マスコミ」と言うたとしても、「私をマスコミして」という、まったく意味不明で、ひびいた言葉にすら聞こえてしまいますので、注意を!

また違う形で「英語でええの」を復活したいと思っております!一年間、読んでいただき本当にありがとうございます。

総務広報委員会委員 エロスリバース



福生青年会議所 第452回例会



クリスマス例会 & 卒業式

創ろう!「ありがとう」のあふれるまち。



12月5日(土曜日)フォレストイン昭和館にて第452回例会「クリスマス例会」が開催されました。
当日は2009年度活動報告、バルーンアートショー&プレゼント抽選会、2009年度の褒賞発表、理事長・直前理事長バッジ交換、プレゼンシャルリース伝達などたくさんさんのプログラムが用意されました。
2009年度活動報告では福生JCIの今年一年間の主な活動が紹介され、担当した委員会メンバーはスクリーンに映し出された写真に感懐深さを憶えたのではないのでしょうか。
褒賞発表では最優秀JCI賞を拡大友好委員会の濱田太郎委員長が一年間の功績を認められての受賞となりました。おめでとうございます。

クリスマス例会 2009

総務広報委員会 委員
南場 伸輔

また、プレゼンシャルリースの伝達式では入江次年度理事長に歴代理事長からリースが伝達され、その「重さ」に若干緊張した面持ちでした。
その他にも、メンバーやOBのご家族にも楽しんで頂けるようにバルーンアートショー&プレゼント抽選会なども用意され、バルーンアートショーでは風船を使ってブードル犬作りにチャレンジし、来場されたお子様達も一生懸命チャレンジし可愛いブードルを完成させていました。
当日は現役メンバーをはじめ、多くのOBの皆様やご家族の方々にも出席して頂き大変アットホーム感のある楽しい例会となりました。

卒業式

クリスマス例会後、同会場にて卒業式が行われました。今年の卒業生は、宋 清深君、中村 潤君、武藤 寿信君の3名です。残念ながら、1名欠席となつてしまいましたが、厳肅な雰囲気の中、経歴紹介と共に入場。改めて、3人の苦労と努力を感じました。
そしてサブライズ第1段。日本青年会議所、安里繁信会頭からのビデオレター。さすが、青年会議所のトップです。感動しました。送辞では感極まってしまうエロス君。涙を誘いました。答辞では、卒業生より現役に対する暖かいお言葉をいただきました。
そして、サブライズ第2弾。「Let It Be」の替え歌で、作詞エロス君、ピアノ。



野口理事長、指揮・大山委員長、歌・現役メンバー全員という豪華なキャストで大熱唱しました。卒業生はもちろん、現役メンバーも泣きました。卒業生の皆様、お疲れ様でした。最後に、今までありがとうございました!

総務広報委員会 幹事
宇治山 義章



総務広報委員会 委員長
大山剛

この人たちはおかしー！09総務の印象です。

例会終了後その日に記事を書いて、翌日発行の広報誌に載せよう。とか、名簿作成で1件ずつOBを訪問しよう。とか、朝5時まで歌の練習をするとか、「無理でしょ」という委員長のおかしさ、完壁すぎるほど応えてくれたし、楽しかったとか感想を述べる。全くおかしな人たちです。そんなおかしな人たちの集まり、総務広報委員会は優秀グループ賞を獲得しました。やはり世の中を変えるのはおかしな人たちなのです。みんなに支えられて、1年間おかしく楽しく過ごした。J.C.において委員長は、やはり最高の役職だと思えます。在籍するからにはみんな、その楽しさを体験してほしい、本年1年間委員長を務めたのは、本当にみなさまのおかげです。この1年間をやり通したことはとても誇れることです。よく頑張ってください。どうもありがとうございます。



総務広報委員会 副委員長
大串昭彦

今年度総務広報委員会の船出は1月の我が委員長HPで「元日に「宇宙に衝撃を与える？」」というトピックで、一言の勘違いから始まり、その勘違い委員長長の沈没船に半ば強引に乗せられた委員メンバーは、大きな不安を抱えての出航になりました。

われら委員長は常に「安受け、無茶振り、命令」が日常茶飯事でした（大笑い）そんな委員長に1月2月...4月と月日が経つにつれて私を初めメンバーが汚染され始めました（マジで！）クリスマス例会では委員長の1月から言っていたグループ賞も頂き、委員メンバーは絶好調で本年最後の26日の大掃除＆打ち上げをもって終了致します。私は最初大丈夫かと思っていた委員長は、1月終わりにくらくらにはさつと大山という人間が好きになつていったのと思います（ホモではありません）。福生J.C.に入り今年ほど面白かった事はありません。それに総務広報委員会メンバーにしても、皆いい奴らの集団でした。また来年度も09年度の総務広報委員会のような面白い委員会になるよう頑張ります。本当に今年度大山委員長並びに総務広報委員会の皆様「ありがとう」ございまして「そして褒めすぎました（笑）」



総務広報委員会 幹事
宇治山義章

私は今年1年、大山委員長の下、幹事兼記者という立場でした。最初は無茶振りが多く、宇宙に衝撃を与えようとか言い出すし、やばいところに来た、と思いました。しかし、日が経つにつれ、この総務メンバーと一緒に活動することが楽しい、そう思うようになりました。苦手な文章もいっぱい書きました。今でもうまくなりませんが、まあまあ書けるようになりました。この1年、本当に楽しかった。大山委員長はじめ委員会の皆様、そして、「愛読して下さった関係各位、ありがとうございます。」



総務広報委員会 委員
宋清洙

入会19年の最後になる委員会が総務でした、今年度はあまり出席出来なかつたのですがメンバーとの触れ合う時間を一刻一刻と近づける卒業年を大変大事にしました。また19年の最後に優秀グループ賞も頂き、大変良かったと思っております。今後はJ.C.の先輩として、良きアドバイザーになるよう頑張るつもりなので、何かあっても、無くて、飲みます、誘いの電話を下さい、また掛けちゃいます。総務広報委員会メンバーの皆様、本当度は本当に有難う御座いました。



総務広報委員会 委員
野口祐貴

「また1年活動できないだろう」そんな想いで参加した2009年度賀詞から約1年。振り返ると福生青年会議所に対して何もしていないことへの罪悪感で一杯でした。

「どうせ欠席のメンバー」に絶えず声を掛けるのはひどくむなしかったと思います。自分も中心で活動するときは、入会していきながら動けないメンバーに対しそんな気持ちを抱くのでわかります。そろそろ「意味のない所属」について考えなければならぬと思っております。ただ、今年所属した総務広報委員会メンバーは温かかった...委員会関係で参加したのは2回でした

が、大山委員長はじめ皆さんに家族のように迎えられる度に目頭が熱くなり、暗めの会場で良かったと席についた事が印象に残っています。これでとても救われたこと言うまでもありません。



総務広報委員会 委員
エロスリバース

いま振り返ってみると、総務広報委員会の委員として過ごした2009年は長そうで短い一年でした。予定者委員会での大山委員長が発言した「宇宙に衝撃を与える！」は、いまでもよく覚えております。ウェブサイトを運営から広報誌の作成まで、情報源となるメディアに携われたことに、まず感謝の気持ちでいっぱいです。大変なところもありましたが、一年を通して総務で行った例会や事業は「生の想い出になる」と信じてます。

大山委員長のリーダーシップを軸に数々の壁を乗り越えながらメンバーと活動ができました。この貴重な経験と想い出をさらなるステップアップの起爆剤にして仕事でもJ.C.でも自分のレベルを上げていきたいと思えます。総務広報委員会のメンバーのみなさん、ホントに年間お疲れさまでした、そして、ありがとうございます！YES WE CAN!



総務広報委員会 委員
南場伸輔

今年9月に入会して総務広報委員会には3ヶ月ほどの短い間の在籍でしたが大変充実した時間を過ごすことができたと思えます。

的確かつ創造的な指示を出す大山委員長をはじめ、それを支える委員メンバーの皆様には今後のJ.C.活動やそれ以外にも大変役に立つ色々なことを教わりました。委員会メンバーの方々には色々とお迷惑をお掛けしてしまっただけですが、総務広報委員会に配属され本当に良かったと思っております。また、広報誌では読みづらい「いまいち」な文章で読者の皆様には大変迷惑をお掛けしたと思います。すみません...

◆今月のコラム◆

とうとう今号をもって、最終号となった09年度版FUSSA EXPRESS.

今号は卒業特集&ラストということ、8Pフルカラーで発行しましたが、お楽しみいただけましたか？

毎月発行の福生J.C.広報誌。その永き渡る伝統を継承し、さらに昇華させようという気概をもって1年間取り組みました。無茶な要求にも快く応えてくれた理事長をはじめとする執筆者の皆様ありがとうございました。

そして、わがまま編集長を支えてくれた09総務広報委員会の皆様、あなたの方のおかげで休刊も廃刊もせずに続けることができました。継続は力。これからの人生にこの1年が役に立つことを切に願います。

この1年、プロの広告屋としてできることを思い切りやらせていただきましたことを感謝します。1年間ありがとうございました。

2009年度

FUSSA EXPRESS 発行責任者

大山剛

